２０１８　北海道合宿　感想

63 期　阿部 直人

旭岳→旭岳キャンプ場→下山

僕たちはこの夏、北海道へ山行合宿に行ってきました。本来の予定では山中で三泊し四日かけて大雪山系を縦走する予定だったのですが、入山の時点で天候が悪く、回復も見込めなかったために上記の通りと相成りました。移動を含めて九日に及んだ今合宿の行程、感想を記します。

＜**初日**＞移動

朝に金沢を出発、新潟から小樽行きフェリーに乗りました。船旅に慣れていないことや、合宿への緊張から最初は落ち着けませんでしたが、メンバーの先輩方が良くしてくれたおかげで楽しく過ごせました。

＜**二日目**＞入山

旭岳→旭岳キャンプ場、テント泊。早朝に小樽に到着、札幌と旭川を経て旭岳に入山しました。この時点で、登山行程のカットを決断せざるをえないほど天候は悪く、山頂からの景色も良くはありませんでした。ですが北海道の最高峰ということもあって登頂したときの感動はひとしおでした。その後、山頂近くのキャンプ場にてテント設営を行い、先輩方と遊んだり食事を楽しんだりしました。

＜**三日目**＞下山

残念ながらも、天候等を鑑みて下山することとなりました。正直に言うと、今回の登山は、登山経験に乏しい僕からしても少々不完全燃焼の感が残りました。北海道大雪山系の雄大な自然、美しい景色など味わうことがかなわなかったものが多くありました。これからの登山人生でリベンジを果たしたいと思います。

＜**四日目**～＞観光

本来の予定では観光の予定は二日から三日間だったのですが、上記の経緯もあって、今合宿は観光がメインになったといっても過言ではありません。田舎情緒のある地域から観光名所が集まる都市部まで様々なところに訪れました。メンバー全員で旭山動物園に行ったり、札幌でラーメンを食べたりと、とても楽しく北海道を満喫できました。自由行動の日も設けられており、穴場スポットや以前から行きたいと思っていた場所にも訪れることができたので良かったです。

＜＜**まとめ**＞＞

今回の北海道合宿は上記したように少しばかり心残りのあるものとなってしまいました。いつか必ず晴れた大雪山の素晴らしい景観を目にしたいですし、当初の予定も達成したいです。その機会があるのは来年か、はたまたその翌年か、あるいはさらに先になるのかは分かりませんが、その日に向けて今後励んでいきたいと思います。

夏合宿　飯豊連峰

62 期　伏木 涼太朗

●プロローグ

今回、東北パーティーは飯豊連峰の杁差岳～北股岳～飯豊山といったルートを縦走しました。山中に４泊５日、移動や観光の日含めると６泊７日という日程で行われた今回の夏合宿、非常に濃密なものでした。その内容をここに書き記します。

●1 日目

〈金沢―新潟駅―大石オートキャンプ場〉

朝７時、金沢駅にて恒例のお見送りをしていただき、新潟駅に向け高速バスに乗る。ところがバス内にてメンバーの一人、M氏の様子がおかしい。どこかへ電話を掛けたりリーダーとなにか話をしている。どうやら金沢駅に愛用の登山靴を忘れたらしい。だが心配ご無用、ここは大都会・新潟。駅前のモンベルにて登山靴を購入。新潟駅から電車・タクシーを乗り継ぎ、その日は大石オートキャンプ場にて野営。

P. S. 山行の序盤では、新たに購入した登山靴をいかに汚さず、後輩やメルカリで売却するかばかりを考えていたM氏であったが、山行中に愛着が湧いたのだろうか、その後の富士山 PW でもその登山靴を愛用している。今でも彼が山行に参加するたびにパーティーのメンバーは彼がどの登山靴を履いているかを必ず確認し、夏合宿の思い出話にふけるのである。

●2 日目

〈大石オートキャンプ場―杁差岳―杁差避難小屋〉

朝５時、天候が悪化する恐れがあったので予定

より1時間早くキャンプ場を出発。この日はたいして面白みのない林道とこれまた面白みのない標高差1500mの尾根を約10時間半かけて登った。

林道ではアブやブヨといった虫が非常に多く虫除けスプレーを掛け、防虫ネットを着用して登山をした。行動中も避難小屋でも誰とも会うことが無く不思議な気分になった。

8月9日　杁差岳への急登にて

●3日目

〈杁差岳避難小屋―大石山―門内岳―北股岳―梅花皮小屋〉

朝8時、雨は小降りであったが、濃霧のため予定を2時間遅らせて避難小屋を出発。2時間ほど歩くと頼母木小屋に着いた。ここは、珍しく管理人さんが常駐している避難小屋である。今回の山行で初めて人に会う。管理人さんも久しぶりに人と会って嬉しかったのだろうか、飯豊連峰の写真を見せてくださりコーヒーをご馳走になる。その後、天候は安定し、無事に梅花皮小屋に到着した。

●4日目

〈梅花皮小屋―烏帽子岳―御西小屋〉

この日は快適な稜線歩きがほとんどであった。途中でガスも晴れこれから歩く飯豊連峰が一望できた。高山植物が点在していたが誰も名前が分からず次回までには勉強しておこうと思った。今日は御西小屋から飯豊連峰最高峰の大日岳へ往復する予定であったがメンバーの士気が上がらず断念。

8月11日　御西小屋からの景色

●5日目

〈御西小屋―飯豊山―三国小屋〉

この日は飯豊連峰の主峰飯豊山に登るのに相応しい快晴であった。飯豊山に登頂すると今まで歩いていた稜線そしてこれから歩いていく稜線が一望でき達成感とこれからの期待に満ち溢れた。

その後は標高を下げたせいだろうか稜線を歩いているせいだろうか大変暑く今回の山行では一番きつく感じた。

8月12日　飯豊山山頂にて

●6日目

〈三国小屋―弥平四郎―新潟駅〉

この日は、三国小屋から弥平四郎登山口まで下山するだけの3時間ほどの行動であった。三国小屋のトイレは素晴らしく洋式で水洗であったため快適な山行につながった。

登山口より乗合タクシーにのり野沢駅近くの温泉へ向かう。温泉で山行の疲れを取り、野尻駅より電車を乗り継ぎ新潟駅へ向かう。

今晩の宿は先輩が手配してくださった新潟駅

近くのゲストハウスであった。今まで宿泊したことのないオシャレでかつ機能的な宿であった。また、打ち上げは新潟駅近くの肉料理のお店であり、ビーフシチューが絶品であった。

●7 日目

〈新潟駅―金沢〉

この日は朝 8 時に高速バスに乗り、12 時半ごろ金沢駅に到着した。夏合宿の終わりである。

●エピローグ

今回の山行は避難小屋を利用したものだったため大幅な軽量化を図ることができ快適な登山が出来ました。また、あまり行くことが無い山域であり、雄大な雪渓とおだやかな山並みの稜線歩き、種々の高山植物を楽しむことが出来た思い出深い山行となりました。

夏合宿　北アルプス縦走

63 期　楠 大生

私たちの夏合宿は 5 泊 6 日の北アルプス縦走でした。ルートとしては立山から入山し、五色ヶ原、スゴ乗越、薬師岳、黒部五郎岳、双六岳、槍ヶ岳、そして新穂高に抜けていくというものでした。日程もかなり厳しく、11 時間行動の日が 2 日間あり、5 人中 3 人が登山初心者ということもあって、最初は不安しかありませんでしたが、私は慣れない重い荷物に苦しみながら、長い道のりを歩み始めました。そんな時、立山の美しいパノラマが目に飛び込んできて、私の不安は好奇心へと変わっていきました。

私にとってこの夏合宿は初めてのことばかりでした。1 つは、3000 メートルを越えたことです。幸いなことに高山病になることもなく、元気な状態で高峻な山々を拝むことができました。3000 メートル越えは自分の中で 1 つの憧れでもあり、4 回目の山行で達成できるとは思ってもみなかったのでとても感激しました。

もう 1 つは、5 泊 6 日という私にとっては長い縦走計画です。準備の段階で何をどう用意すればいいか全くわからない状態で、自分なりに行動食や必須装備をパッキングしていきました。かなり考えて装備を削ったつもりでしたが、それでも 80 リットルがパンパンに膨れ上がっていました。そして重量も 20 キロほどで、背負うのがやっとという体感でした。山行の中で早く自分の食糧を消費して軽くしたいと、晩御飯の順番を巡って話していたことを思い出します。私はその晩御飯の時間が毎日 1 番楽しみで、その日の疲れが癒されて次の日もがんばれていたなぁと感じます。テント泊も慣れていくもので、後半は全く苦に感じることはありませんでした。それでも午後 6 時に就寝して、翌朝 2 時に起床してからの準備をまたしたいかと言われたら、遠慮したいです。

そして、1 番私の心に残っていることは、4 日目に膝の靭帯を負傷したことです。実はこの怪我のせいで予定を変更して 4 泊 5 日で下山ということになりました。私は自分のせいで、最後の槍ヶ岳にこれまで苦楽を共にしてきた仲間達と登頂できないことが悔しくてたまりませんでした。それでもみんなは全くわたしを責めることなく、下山を温かく受け入れてくれました。だから私はまたこのメンバーを誘って槍ヶ岳に行くことを約束しました。

うまくいかないことも多く、辛いことばかりでしたが、もう 2 度と行きたくないと言えばそれはウソになります。この山行で私たちは今までの何倍も成長できたと強く感じます。これからもしこの夏合宿より辛いことがあっても難なく乗り越えていける気がします、山が好きだから。

夏合宿　中央アルプスＰ

62 期　木村 聡志

8 月 10 日から 13 日にかけて中央アルプスを縦走してきました。当初の予定は 9 日から 14 日まででしたが、台風で出発を一日遅らせ、10 日出発となりました。台風の進路と計画書をにらめっこしつつ、一日遅らせれば安全という判断でした。

8 月 10 日朝。メンバー全員が遅刻することもなく集まり、先輩方から差し入れをいただきました。この差し入れが後で大惨事をもたらすのですが、それはのちほど。出発！北陸新幹線で長野まで移動し、乗りかえること二回。ロープウェイで一気に 1000m登り、標高 2612m。目の前には、晴れ渡った青空の下、千畳敷カール。雄大でした。

悲劇が起きたのはその日の夜でした。リーダーのリュックのなかで差し入れのメロンが割れ、さらに液漏れしてぐちゃぐちゃに！食感も変化してしまって食べられない人もいました（僕です）。食べ終わったあと、トイレットペーパーにメロン汁をしみこませて処理し、さらに袋を五重にして漏れないように工夫してまとめましたが、重さは食べる前と変わらなかったです。

先輩方、来年は液漏れしない差し入れをお願いします。

8 月 11 日。くもり。昨日のスタート地点の千畳敷ロープウェイ駅経由で険しすぎる宝剣岳を迂回しました。濁沢大橋を通り、檜尾岳に到着。避難小屋で幕営。宝剣岳迂回の時だけ晴れていたので、晴れた状態で千畳敷カールを二回も見ることができました。このときを最後に「山にいる時は」ほとんど曇っていました。

8 月 12 日。東川岳、熊沢岳経由で空木岳。（**メインザックを背負っている状態で岩場**）＋（**天候に恵まれない、ときおり雨も降る**）＋（**想像以上岩場が険しい**）＝（**結構きつかった**）。個人的には、岩場のきつさが一線を越えた後に、なぜか楽しくなって不思議でした（これがクライマーズハイなのか？）が同じことを感じたメンバーもいたようです。

8 月 13 日。メンバーの体調と天気をふまえ、南駒ケ岳のアタックを諦め、下山することとなりました。あとは下りるだけということで気持ちは楽でした。朝、体調を崩していた某二年生がゴール目前に走り出したのを見て、皆で「おい！！！」と言ったのも懐かしいです。温泉に入り、電車を乗り継いで金沢で解散した時は、達成感を感じました。

僕自身、去年の合宿が悪天候の影響で 1 泊 2 日で打ち切りとなってしまい、今回の山行が初めての本格的な縦走でした。夏合宿経験値は一年生と同じという状況でしたが、「チームのなかの潤滑油の役割を果たす」という目標を立てて歩いてきました。去年の経験から、少し先を読むことができたので、今何をするべきかを考え、周りの人を巻き込んで行動できたことが良かったと思います。去年は、リーダーの後ろをくっついて、言われないと行動できなかったので、この合宿を通して得たものは大きかったと思います。

パーティーとしても、体調が悪いメンバーが出るなかで、装備を分ける、ペースを工夫するなどの協力体制があったことがよかったと思います。トラブルがあっても“チーム力で乗り越える”という、“Inoichiban”なパーティーでした。

夏合宿　南アルプスパーティ

62 期　山口 渓太郎

自分にとっては2回目の夏合宿は、南アルプスの縦走でした。夏合宿が始まる前に、地図を見て行程の確認をしていると、今まで自分が歩いたことのないような距離を歩く予定であることが改めて分かりました。天気が良ければとても素晴らしい景色が見られるということで、楽しみではありましたが、体力的に耐えられるかどうか不安な気持ちもありました。

しかし、非常に勢力の大きな台風が夏合宿の日程と同じころに接近するということが分かりました。メンバーで色々なプランを話し合った結果、当初6泊7日で予定していた行程を2泊3日に変更し、台風が近づく前に夏合宿を終了させるプランに変更しました。具体的には縦走ではなく、1日目は移動、2日目に甲斐駒ヶ岳、3日目に仙丈ケ岳に登るという行程でした。

1日目

個人的に、今年の夏合宿が去年の夏合宿や他の山行に比べて大きく異なった点は、移動手段が自家用車であった点です。自家用車で移動したことで、大きなメインザックを持ち歩かずに済むだけでなく、南アルプスまで公共交通機関でアクセスするためには新幹線を使わざるを得ないため、コストも大幅に抑えることが出来ました。お金がない私たち学生にとって、これは非常にありがたかったです。移動中は、この日は天気も最高に良かったので、メンバー同士で会話を楽しみながら、多少行程は少なくなってしまったけれどこの夏合宿を楽しみたいという気持ちでいっぱいでした。

こうして車は仙流荘に到着し、ここからこの日のテント場である長衛小屋まで、マイクロバスで移動しました。この道中、シカの親子が急にバスの前に現れました。この時ほどの距離でシカに遭遇することはなかなかないので会えて嬉しかったです。ただ、もともとはシカや他の動物たちが住むところに人間が勝手に道路を作ってしまったということを改めて思い知らされました。自然と触れ合っていく上で、私たちは動物たちの住処にお邪魔するという気持ちを持っておかなければならないというようなことをバスの中で考えながら、終点の北沢峠に到着しました。ここから10分ほど歩き、長衛小屋に着きました。

2日目

この日は朝から雲がかかっており、予想はしていたものの、天気はあまり良くありませんでした。登り始めると、雨が降ったり止んだりしていましたが、いいペースでどんどん登っていきました。山頂に近づくにつれ、雲が晴れる時間が増えてきました。しかし、個人的には、前半で先頭を歩いてそれなりに早いペースで歩いてしまったため終盤で多少ばててしまいました。このあたりが来年への課題だと思いました。

山頂についた頃もちょうど雲が晴れる時があり、わずかながらもいい景色を見ることが出来ました。下山する途中で電波が入る場所で天気予報を確認すると、入山前の予報よりも天気が前倒しで悪くなるということが分かり、次の日以降は北沢峠から仙流荘へのバスも運休する可能性があるため、この日に下山するということを決めました。

結果的には1泊2日という短い夏合宿となってしまいましたが、山頂に行くことが出来ただけでなく、メンバーとの親睦を深められ、楽しい時間を過ごせました。